



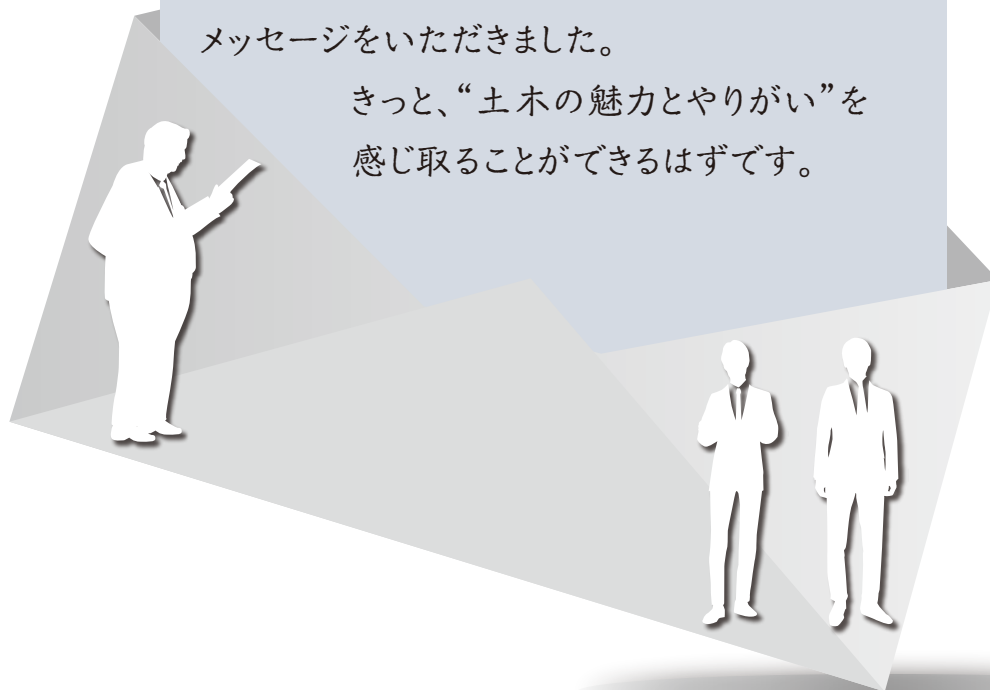
新入社員への手紙



新入社員の皆さん、入社おめでとうございます。

社会人としての新しい人生がスタートし、心配や不安もある反面、希望と期待を胸に新たな一歩を踏み出された皆さんに、さまざまな経験を積んで活躍されている先輩方から、心のこもったメッセージをいただきました。

きっと、“土木の魅力とやりがい”を感じ取ることができるはずです。



- それぞれの夢に向かって 4
高木 浩志 株式会社安藤・間 安全品質環境本部 安全部 課長
- 自分なりの考えを持ってから行動する 5
文随 尚 佐藤工業株式会社 東京支店 安全環境部 土木担当部長

それぞれの夢に向かって

拝啓、桜花爛漫の候、新入社員の皆さんにおかれましては、ますます輝かしい春をお迎えのことと思います。これからの出来事にやる気と不安を募らせていることでしょう。学生時代のアルバイトなどと違い、これからは一人の社会人として、責任と自覚を持って、様々な工事に従事してください。

昨年度は、6月に大阪北部地震、9月に北海道胆振東部地震、7月の西日本豪雨災害、さらに大きな台風が7月以降に複数回上陸するなど、住宅の全半壊・大規模な停電・土砂崩れ・河川の氾濫・床上床下浸水など、一部には人災という声も聞こえてきますが、自然災害が猛威を振ったことは、皆さんの記憶の中に鮮明にあることと思います。建設業、特にこれから土木工事に携わっていく皆さんへの社会の期待と要請が日増しに高まってくることでしょう。

私は小さいころ地理が好きで、“ここにダムがある”、“ここを高速道路が走っている”など地図をよく見て、土木構造物について書かれた書籍をよく読んでいたことから、CMでもありましたが、“地図に残る仕事”がしたいという私の夢に向かって、大学の学部を選択し、29年前に間組に入社しました。

土木係40名の入社のうち、二人が東北支店へ。私はダム現場へ、もう一人はゴルフ場の現場へ4月中旬には配属されました。支店から数時間、所長の運転する車の助手席に座り山奥へ。最後は狭い道路を走り、ダムサイトの現場事務所へ着きました。JVでしたが社員は全部で30名を超えていたかと思います。様々な年代が揃っている中、仕事も終わって、事務所の裏の宿舎（昔は飯場と言っていました。）に帰ると、酒盛りが始まり、先輩から色々な経験談を聞かされたものです。今になって思えば、半分は上司の愚痴でもあり、中には仕事に直結する貴重な経験も含まれます。当時は、コミュニケーション（飲みニケーションとも言われますが。）も十分に図られていたと思います。

ダム現場で2年半勤務した後、関東に異動して、

様々な工事を経験しました。シールド、宅地造成、ゴルフ場造成、山岳トンネル、高速道路の明り土工、PC橋梁、土壌汚染対策など色々です。この中で二度従事した工種もあれば、経歴や資格の関係で、大阪や北海道に赴任したこともあります。地図に残る仕事もあり、マンホールで終わった現場もあります。

皆さんも、これから色々な工事に携わっていくことと思います。現場で行う業務には様々なものがあります。材料の手配から始まり、様々な構造物を工期内に作って、発注者の検査を受ける品質と出来形の管理。工事中の無事故・無災害を目指して行う安全衛生管理。企業の利益を追いつめる原価管理。中には、設計部門や店社に上がることもあるかもしれません。若いうちは、様々なスキルを貪欲に吸収し、資格の取得にも励んでください。

しかし、メンタルヘルスの不調に陥るケースも散見されます。決して自分一人で抱え込まず、周りとのコミュニケーションを大切にしてください。

それぞれの夢に向かって。応援しています。また、どこかでお会いしましょう。

敬具

株式会社安藤・間

安全品質環境本部

安全部 課長

高木 浩志



自分なりの考えを持ってから行動する

新入社員の皆様、入社おめでとうございます。

この手紙を認めるに当たり、私が入社した約40年前の頃を懐かしく思い出しています。最初に配属されたのは山岳トンネルの工事現場でした。岩盤を削孔、爆薬を装薬、発破、ズリ出し、その後支保工を建込みコンクリートで覆工する在来工法にて施工していました。その中で、工事の進捗に合わせてセンター測量をしなければならないのですが、トランシットを上手く据えられず、手間取っている間に装薬が完了してしまい、発破の為に測量を中断し退避しなければならなかったことなど色々苦しい思い出も沢山あります。

これまでの社会人、技術屋の先輩として自分の経験を踏まえて皆さんに参考にして頂ければと思うことをお話ししたいと思います。

1つ目は「自分なりの考えを持ってから行動すること」。皆さんは、入社後間もなく施工現場等の第一線に配属されることと思いますが、自分もそうでしたが見る物・聞く事すべてが初めてで、戸惑うことが多いのではないかと思います。そのような時には、上司や先輩に遠慮せず質問をしてみてください。その場合、前もって自分なりに考えたり調べたりすることを怠らないで下さい。正解を聞いて行動することは間違いのない確実な行動です。しかし、指示されたことを忠実に実行しているだけでは自分の技術・経験としてなかなか蓄積されません。ここでは、まず自分なりの考え方を持ってから行動することが重要です。

2つ目は「どんな仕事にも身につける順番があること」。仕事を身につけることは、短期間で成果が現れるものではありません。初めは与えられた業務の中で、精一杯がんばることが重要です。上司や先輩も初めから優れた知識や技術を持ち合わせていたわけではありません。その成長していく過程で必要なス

キルを習得して現在に至っています。初めに与えられる業務は恐らく簡単なことからなると思います。皆さんにとってその業務はある意味つまらない業務と思うことがあるかもしれませんが、ひとつずつ確実に身につけることにより一歩ずつ成長していくことが大切だと思います。

3つ目は「自分の仕事に誇りを持つこと」。建設産業は社会基盤を整え、国民生活に寄与しています。自分の仕事に誇りを持って下さい。土木技術のことを地球の医学、土木技術者のことを地球の医師と呼ばれることもあります。毎日の慌ただしい業務に流されそうになったら、自分を再度見つめ直して業務にあたるようにして下さい。

今までの3つのことを心の片隅に置いて業務に邁進して下さい。皆さんには若々しいエネルギーとバイタリティーが溢れています。プロフェッショナルな土木技術屋として成長して下さい。その力を思う存分発揮して活躍することをお祈り申し上げます。

佐藤工業株式会社

東京支店

安全環境部 土木担当部長

文 随 尚

